

公益社団法人京都保健会は  
新型コロナウイルス感染の収束のために、全力挙げて取り組みます。

2021年6月3日 公益社団法人京都保健会  
理事長 吉中 丈志

新型コロナウイルス感染は第4波の最中にあり、感染者が減少傾向にあるとはいえ予断を許さない状況が続いています。京都府に出されている非常事態宣言も継続中です。医療機関や保健所など関係者の懸命の努力にもかかわらず、患者が増加し続け、医療提供体制がひっ迫しました。自宅療養になった方が入院できずに死亡する事例も発生しました。新型コロナ感染症に斃れた方々のご冥福をお祈りいたします。

京都保健会は、感染収束に向け、①患者さんの命を守る、②地域住民のみなさんの健康を守る、③エッセンシャルワーカーや職員を感染から守る、ことを基本方針として全力を挙げて取り組んでいくことを表明いたします。

新型コロナワクチン接種が進んでいます。医療従事者に次いで高齢者の接種が進み、優先接種対象者などへと順次拡大しつつあります。当会の各事業所も地域の皆様や行政機関と協力し全力で取り組んでいるところです。ワクチン接種が感染拡大終息の道筋をつけることは明確です。すべての人にワクチンを届けることを基本にしてワクチン接種に臨みます。優先接種、職域・学校接種などについてもご要望をお聞きしながら進めてまいります。

- ① 京都保健会事業所は、かかりつけの患者さんや地域の人びとが、だれ一人取り残されないようワクチン接種を進めます。
- ② 事業所ではできる限り最大の個別接種を行います。事業所では対応できない場合には、1) 連携する事業所、2) 地域の医療機関、3) 集団接種、などにつながります。
- ③ 地域全体の接種が進むよう、集団接種への出務、企業、学校接種など行政や医師会などと協力して取り組みを強めます。
- ④ 京都保健会は共同組織(健康友の会)のみなさんと協力して新型コロナ感染症と闘っています。ワクチン難民を出さないよう困難な人々に寄り添うことは特に重要です。自治連合会などとも連携して健康不安やワクチン接種などの相談活動に取り組んでいきたいと考えています。気軽に声をおかけください。

新型コロナ感染が長引くなかで、貧困と格差の拡大の連鎖が続いています。健康や医療の被害は新型コロナ感染による直接の被害ではありません。救急など通常の医療を受けられなかったり、メンタル不全のように新たな疾患の発生も含まれます。だれ一人置きざりにされてはなりません。SDGsなど社会的な施策を強め行動する時期です。感染収束に向けて、すべての医療機関、行政、関連組織の皆様方と協力、連帯して全力を挙げて取り組んでまいります。